

第5次レッドデータブック：
絶滅のおそれのある日本の野生生物
The 5th Red Databook, Threatened wildlife of Japan

クメトカゲモドキ

Goniurosaurus yamashinae (Okada, 1936)

戸田守（琉球大学）

絶滅のおそれのある野生生物の選定・評価検討会 爬虫類・両生類分科会



令和8（2026）年3月



特に文献内で別途指定がない限り、この文献はクリエイティブ・コモンズ 表示 4.0 国際ライセンスの下に提供されています。

<https://creativecommons.org/licenses/by/4.0/deed.ja>

種毎の解説を引用する場合には以下のように記述してください。

引用表示：戸田守，2026. クメトカゲモドキ. 環境省（編）第5次レッドデータブック：
絶滅のおそれのある日本の野生生物， pp. 62-66.

Citation: Toda, M., 2026. *Goniurosaurus yamashinae* (Okada, 1936). In: Ministry of the Environment, Japan
(ed.), *The 5th Red Databook, Threatened wildlife of Japan*, pp. 62-66.

クメトカゲモドキ

Goniurosaurus yamashinae (Okada, 1936)

カテゴリー判定結果 絶滅危惧 I B 類 (EN) B2ab				
基準 A: —	基準 B: EN	基準 C: —	基準 D: —	基準 E: —
B2. 生息地面積が 500 km²未満であると推定されるほか、次の兆候が見られる。 a) 生息地が過度に分断されているか、5 以下の地点に限定されている。 【過度に分断】 久米島の地形と現在の土地利用状況から考えて、2 つの山系の間で遺伝的な交流が妨げられていることはほぼ明らかである。それぞれの地域のなかでも個体群はいくつかに寸断されていると思われる。 【地点数】5 地点以下 b) 出現範囲、生息地面積、生息地の質、生息地点数、成熟個体数のいずれかに継続的な減少が推定・予測される。 【判断理由】 農地開発などの影響によって生息域の減少が進んでいる。				
評価分科会： 爬虫類・両生類分科会				

概要

沖縄諸島久米島の固有種で、虹彩が赤みを帯びず、黄褐色である点で近縁種と区別できる。常緑広葉樹林に覆われた山地とその周辺に見られる。土地改良や林道整備等による生息地の環境変化が続いており、個体群のさらなる縮小が懸念される。

基礎情報

【形態】

成体の頭胴長は 75～85 mm ほどで、胴部の模様が横帯を基調とする点で類似するイヘヤトカゲモドキ (*Goniurosaurus toyamai*) と比べると、より細身の体型をしている。他の全ての国産の同属種で虹彩が赤味を帯びているのに対し、本種では赤味がなく黄褐色であるのが最大の特徴。胴背面に 4 本ある横帯も黄色味を帯びたクリーム色で、幼体では黄色味も弱く白に近い。背面に縦条はなく、横帯と横帯の間には不規則な小斑がある。腹面には一様に偏平な鱗が瓦状に並ぶ。

【生活史】

4～9 月の夜間に活動中の個体が観察されている。少なくとも 6 月中旬～7 月中旬にかけて輸卵管卵をもったメスが現れ、一度に 2 個産卵することが分かっている。しかし繁殖期間や 1 シーズンあたりの産卵回数等は不明。世代期間、社会構造についても不明。国産の同属種と同様、地上性の無脊椎動物を捕食すると考えられるが、具体的な知見はない。

【生息環境】

おもに常緑広葉樹の自然林や回復の進んだ二次林内に生息するが、畑の近辺にも出現することがある。洞窟内でも確認されている。

生息環境区分：	【陸域_低標高地】森林、岩壁・ガレ場（石灰岩地等）、洞窟・地下浅層・地下水域
	【陸域_平地部】森林、田地・畑地、洞窟・地下浅層
国土地域区分：	(1) 奥山自然地域, (2) 里地里山・田園地域, (7) 島嶼地域

【分布域】

沖縄諸島の久米島に固有。国産の他の同属種は、奄美諸島の徳之島と、沖縄諸島の沖縄島およびその西側の島々に分布する。

現在の生息状況

【分布域の現況】

資料が少なく、分布域の経時的な変化については不明。久米島の中央部では本種の生息に適した環境は限られるため、同島北部の宇江城岳を中心とする分布域と、同島南部のアーラ岳山系の分布域は寸断されていると考えられる。

【生息地の現況】

土地改良や林道整備により生息条件を満たす環境は縮小、断片化の傾向にある。

【個体数の現況】

資料が少なく、個体数やその動態について具体的な推定値を出すことはできないが、全体として生息に適した環境が縮小していることから、個体数も減少傾向にあると考えられる。

存続を脅かす要因

林道建設や農地改良による生息地の縮小が、個体数減少のもっとも大きな要因と考えられる。また、違法採集が繰り返し行われ、最近でも摘発事例があるなど、違法採集者による捕獲圧も本種の減少の一因と考えられる。

要因の区分：	(過去)	森林伐採，土地造成，交通インフラ建設，違法採集
	(現在)	森林伐採，土地造成，交通インフラ建設，違法採集

特記事項

本種を含む国産のトカゲモドキ類は奄美・沖縄諸島のなかで地理的に細かく分化しており、同地域における生物多様性創出の過程を解明するうえで学術的に高い価値がある。形態形質の変異分析に基づき、クメトカゲモドキは本種のなかでもっとも最初に分化したとされていたが、DNA 分析の結果から、徳之島のオビトカゲモドキの分岐のほうが古いことが示されている。沖縄県の天然記念物に指定されている。

旧レッドリストカテゴリと掲載名

第4次 2020:	クメトカゲモドキ	<i>Goniurosaurus kuroiwae yamashinae</i>	CR
第4次 2019:	クメトカゲモドキ	<i>Goniurosaurus kuroiwae yamashinae</i>	CR
第4次 2018:	クメトカゲモドキ	<i>Goniurosaurus kuroiwae yamashinae</i>	CR
第4次 2017:	クメトカゲモドキ	<i>Goniurosaurus kuroiwae yamashinae</i>	CR
第4次 2015:	クメトカゲモドキ	<i>Goniurosaurus kuroiwae yamashinae</i>	CR
第4次:	クメトカゲモドキ	<i>Goniurosaurus kuroiwae yamashinae</i>	CR
第3次:	クメトカゲモドキ	<i>Goniurosaurus kuroiwae yamashinae</i>	CR
第2次:	ヤマシナトカゲモドキ (クメトカゲモドキ)	<i>Goniurosaurus kuroiwae yamashinae</i>	EN
第1次:	—	—	—

都道府県レッドリスト・レッドデータブック掲載状況 (令和6年度末時点)

【沖縄県】絶滅危惧 I B 類(EN)

保護に係る法令指定状況 (令和7年度末時点)

国内希少野生動植物種

参考文献

- Grismer, L. L., H. Ota, and S. Tanaka, 1994. Phylogeny, classification, and biogeography of *Goniurosaurus kuroiwae* (Squamata: Eublepharidae) from the Ryukyu Archipelago, Japan, with description of a new subspecies. Zool. Sci., 11: 319–335.
- Honda, M., T. Kurita, M. Toda, and H. Ota, 2014. Phylogenetic relationships, genetic divergence, historical biogeography and conservation of an endangered gecko, *Goniurosaurus kuroiwae* (Squamata: Eublepharidae), from the Central Ryukyus, Japan. Zool. Sci., 31: 309–320.
- Janssen, J. and C. R. Shepherd, 2019. Trade in endangered and critically endangered Japanese herpetofauna endemic to the Nansei Islands warrants increased protection. Curr. Herpetol., 38: 99–109.
- 栗田隆気. 2021. クメトカゲモドキ. 日本爬虫両棲類学会（編），新日本両生爬虫類図鑑，pp. 107-108. サンライズ出版，彦根.
- 戸田守，2014. クメトカゲモドキ. 環境省自然環境局野生生物課希少種保全推進室（編）レッドデータブック 2014-日本の絶滅のおそれのある野生生物-3 爬虫類・両生類，pp. 4-5. ぎょうせい，東京.
- 戸田守・田中聡，2017. クメトカゲモドキ. 沖縄県環境部自然保護課（編）改定・沖縄県の絶滅のおそれのある野生生物 第3版（動物編）ーレッドデータおきなわー，pp. 185-186. 沖縄県環境部自然保護課，那覇.

アセスメントサマリー (Assessment summary)

Goniurosaurus yamashinae has been assessed for threatened wildlife of Japan Red List 5th edition. *Goniurosaurus yamashinae* is listed as EN under criteria B2ab.

B2. Area of occupancy estimated to be less than 500 km², and estimate indicating at least two of a-c:

- Severely fragmented or known to exist at five or fewer locations.
- Continuing decline, observed, inferred or projected, in any of the following:
 - extent of occurrence
 - area of occupancy
 - area, extent and/or quality of habitat
 - number of locations or subpopulations
 - number of mature individuals

Habitat types:	【Terrestrial/Freshwater area_Low-altitude area】 Forest, Cliff/Talus area (e.g. limestone area), Cave/Shallow underground/Subterranean water body 【Terrestrial/Freshwater area_Plain】 Forest, Farmland, Cave/Shallow underground
Threat types:	Logging and wood harvesting, Land development, Transportation infrastructure

	construction, Illegal harvesting of biological resources
Law designation status for conservation	Nationally rare species of wild fauna and flora.



執筆者:	戸田守 (琉球大学)
Author:	Mamoru Toda

公表年月：2026 年 3 月